

倒産集計**信用交換所京都本社**

09年11月繊維倒産

件数は前月比微増、先行きの不透明感続く

全 国 発生件数 = 47件 負債額 = 172億1000万円

2009年(平成21年)11月の全国繊維業者の倒産(負債額1000万円以上=整理・内整理含む)の発生件数は47件で、前月比で4件(9.3%)増加し、前年同月比で1件(2.1%)減少した。

負債額は172億1000万円で、前月比で24億2800万円(16.4%)、前年同月比で102億1500万円(146.0%)増加した。

負債額10億円を超える大型倒産は(株)メッセージ(群馬県前橋市、ギフト・販促用品卸、負債額32億円)、丸富(株)(広島県福山市、婦人服ほか卸、同27億9400万円)、いわなか(株)(岐阜県安八郡、服地・ニット生地製造、同23億9000万円)、(株)ヴィアンドエス(東京都中央区、かばん・袋物小売、同18億円)の4社。同5億円以上は南家商事(株)(鳥取県境港市、ニットウエア縫製、同9億円)、(株)グリーンハウス(茨城県筑西市、ギフト用品小売、同8億円)、(株)ミヤコ・シャレル(京都市伏見区、かばん・袋物製造、同5億円)の3社だった。

件数そのものは比較的落ち着いた推移をたどっているが、地方有力問屋として知名度のあった丸富(株)が破たん。前記の(株)メッセージ、(株)グリーンハウスのほか、(株)ファミリア(福岡県北九州市)、(株)エフケイプラン(東京都台東区)、(株)山水(福岡市中央区)といったギフト関連の倒産が相次いだ。さらには老舗服地メーカー、旧いわなか(株)の事業を継承したいいわなか(株)がわずか2年で自力再建を断念したことは、市況が極めて厳しい状況にあることを物語っている。

現状、繊維業界においては、雇用不安や所得の悪化が長期化する中、消費者の節約志向から割安感のある一部の消費財を除いて市場は低迷しており、さらにデフレの進行で収益環境も厳しく、経営環境に回復の兆しは見られない。

「中小企業金融円滑化法案」が可決され、年末の資金需要の高まる時期に一定の効果がもたらされると期待されるが、足元の景気が回復し、業績が改善しないことには、こうした施策も問題の先送りにすぎない。

倒産自体は比較的落ち着いた推移を見せているが、水面下では過大な借入金を抱え、財務体質が軟化している先が少なくないことから、この先も予断を許さない状況が続くと見られる。

業種別では、「紳士・婦人・子供服・被服製造卸」13件、「小売商」12件、「その他」11件、「ニット製品・洋品雑貨製造卸」4件、「織物製造」2件、「染色整理・特殊加工」「糸及び原料商」「織物卸」「呉服・和装製品製造卸」「寝具・インテリア製品製造卸」各1件。

原因別では、「業績ギリ貧」が38件で全体の8割を占め、以下は「資金力薄弱」「業況急変」各3件、「放漫経営」2件、「貸し倒れ損失」1件だった。

京 都 発生件数 = 3件(前年同月2件) 負債額 = 6億8700万円
(前年同月2億4500万円)滋 賀 発生件数 = 2件(前年同月0件) 負債額 = 6700万円
(前年同月0円)